

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅲ-1-2 発達段階に応じた教育の振興

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 総務部総務課長 山崎 祥 電話番号 0852-22-5011

事務事業の名称	私立学校生徒確保事業	
目的	(1) 対象	私立学校・学校法人
	(2) 意図	私立高等学校の魅力アップを図るとともに、公立高等学校との意思疎通を図り、入学生徒数を確保する。
事業概要	○島根県公・私立高等学校教育連絡協議会の開催 私立学校の経営安定と公・私立を通じた学校教育の振興を図るため、協議会を開催して高等学校生徒募集定員の公・私立の比率を決定する。 ○高校等生徒授業料減免事業補助金 保護者の負担軽減を支援するため、中学校または高等学校を設置する学校法人に対して、学校法人が所得基準等に応じて行う授業料減免事業経費の助成を行う。 ○島根県私立学校魅力と特色ある学校づくり推進事業 私立高等学校が魅力と特色ある学校づくりを進めるため、高等学校を設置する学校法人に対して、魅力づくりに要する経費を助成する。	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	学習指導要領適合率	年度					単位
			23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
式・定義	学習指導要領に適合したカリキュラムを実施している私立中学校・高等学校の割合	目標値		100.00	100.00	100.00	100.00	%
		実績値	100.00	100.00	100.00	100.00		
		達成率		100.00	100.00	100.00		
指標名		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
		目標値		0.00	0.00			
		実績値	0.00	0.00	0.00			
式・定義		達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	194,835	107,793
うち一般財源(千円)	115,110	96,153

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	①順調に進んでおり課題がないため検討していない
---------------------	-------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

全ての私立中学校・高等学校からカリキュラムを提出させ、学習指導要領のチェックを行っているが、一定水準以上の教育内容が維持されている。高校等生徒授業料減免事業について、特に低所得世帯について授業料が全額免除となる水準まで、助成を行った。また、私立高等学校等の魅力を向上するため、魅力づくりに要する経費（施設設備整備）の助成を行った。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- 県内の公私立高等学校教育の諸問題について協議し、相互の連絡を図り、県内学校教育の振興に資することができた。
- 授業料減免事業により、さまざまな理由により生活に困窮している低所得世帯の高等学校進学希望者に対して、就学を援助することができた。
- 県内私立高等学校等における部活動等の施設、設備整備に対して補助を行うことにより、その全国レベルでの活躍を通じて各学校の知名度を上げるとともに、各学校の魅力、特色づくりをすすめることができた。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

高校等生徒授業料減免事業補助金について、入学年度によって対象範囲や金額などの基準が変更となる可能性があり、私立高等学校が今後入学生徒数を確保する上で、安定した見通しが得られないという状況がある。

②困っている状況が発生している「原因」

国の関連制度（就学支援事業や授業料減免の財源となる国基金）の変更があること、S62年度に資格を満たす生徒全員を補助対象とすることになったにもかかわらず予算が臨時的な経費を想定した不安定な類型（特別需要経費）に分類されていること、その背景としてこの事業が条例等に基づかない事業であること等が原因としてあげられる。

③原因を解消するための「課題」

事業の性質が福祉色の強い事業であり、低所得世帯であることは就学希望者の責任に帰すものでないことを踏まえ、家計の状況にかかわらず就学できる機会を確保する事業の重要性について、庁内で十分に理解を得た上で、必要な予算を確保していくことが課題である。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

低所得世帯の授業料が引き続き全額免除となるために必要な予算を安定的に確保していく。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）